早期発見の目安

日常の暮らしの中で、認知症の始まりではないかと思われる言動を、「認知症の人と家族の会」の会員の経験からまとめたものです。

医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。いくつか思いあたることがあれば、かかりつけ医などに相談してみることがよいでしょう。

家族がつくった「認知症」早期発見のめやす

もの忘れがひどい

- □1.今切ったばかりなのに電話の相手の名前を忘れる
- □2.同じことを何度も言う・問う・する
- □3.しまい忘れ置き忘れが増えいつも探し物をしている
- □4.財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う



判断・理解力が衰える

- □5.料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- □6.新しいことが覚えられない
- □7.話のつじつまが合わない

時間・場所がわからない

- □8.テレビ番組の内容が理解できなくなった
- □9.約束の日時や場所を間違えるようになった
- □10.慣れた道でも迷うことがある



人柄が変わる

- □11.些細なことで怒りっぽくなった
- □12.周りへの気づかいがなくなり頑固になった
- □13.自分の失敗を人のせいにする
- □14.「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた



不安感が強い

- □15.ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- □16.外出時持ち物を何度も確かめる
- □17.「頭が変になった」と本人が訴える

意欲がなくなる

- □18.下着を替えず身だしなみを構わなくなった
- □19.趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- □20.ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる



「公益社団法人　認知症の人と家族の会」作成